

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400906		
法人名	社会福祉法人 函館大庚会		
事業所名	グループホーム こんはこだて		
所在地	〒040-0012 函館市時任町35番4号 (電話) 0138-33-1234		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成21年12月27日	評価確定日	平成22年1月23日

【情報提供票より】 (平成21年11月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人,	常勤換算 6.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年11月28日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	1名
要介護3	4 名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 85.4 歳	最低 81 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	こんクリニック時任・今整形外科・本間眼科・光銭歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

函館市の中心部に位置しているグループホームこんはこだては、市内で2番目に設立した事業所である。敷地内に、母体医療法人とグループホーム街、函館市地域包括支援センターこん他、各種高齢者福祉事業所がある。開設時に、地域生活の継続と本人主体のケアを柱にした事業所独自の理念を作成し、現在に至っている。当初は地域住民の理解が得られず苦慮したが、現在、利用者は地域の一員として町会の行事に積極的に参加している、事業所のイベントには地域の方々が大勢訪れるなど、交流を盛んにしている。医療体制も万全で、利用者と家族は安心であり、今後更なる充実を期待される事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である、地域とのつきあい、職員を育てる取り組み、火災対策などについては、管理者や職員全員で検討を重ね改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価の意義やねらいについて職員に説明している。職員は日頃のケアの振り返りと職員間の意識あわせの機会ととらえ、項目ごとに分担して全職員が記入し、ミーティングの中で話し合い作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2~3ヶ月ごとに開催している運営推進会議は、事業所の報告や利用者の日常生活の様子、評価結果を議題とし、改善に向けての意見をもらい、実践に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に要望や意見を聴いたり、来訪できない家族には、電話や自宅を訪問した時に伺い、出された件についてはミーティングの中で話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会のもちつき、敬老会、あったか食事会など、町会の行事に利用者は参加している。七夕まつりには大勢の子供達が訪れ、利用者とのふれあいがあり、事業所主催の行事には、たくさんの地域の方々が来訪している。市内の高校の福祉科と調理科主催の、高齢者用の食事会に招かれ、感想、評価を述べるなど、地域との交流を盛んにしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「運営理念」は、地域生活の継続と本人主体のケアを柱に作り上げている。「ケア理念」は、これまでの理念を見直し、自立と笑顔を取り入れた理念にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に理念を伝えている。職員はネームプレートの裏に理念を記載して常に携帯し、理念を共有しながら実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	もちつき、敬老会、食事会他、町会の行事に利用者は積極的に参加している。家族が提供した新鮮な「いか」の無料配布と事業所のイベントは好評で大勢の地域の方々が参加しており、地域との交流を盛んにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義とねらいについて職員に説明している。自己評価は、職員の日頃のケアの振り返りと職員間の意識あわせととらえ、項目ごとに分担して全職員が記入し、ミーティングの中で改善やアイデアを取り入れた話し合いをして作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。事業所の報告と利用者の日常の暮らしや、評価結果を議題とし、改善に向けての意見をもらい、実践に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と、運営に関する相談や要望など連携は常にしている。保健所からの情報で研修会に参加するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭の明細と領収書を添えて、職員の異動がある時も一緒に家族に報告している。利用者の暮らしの様子は、自筆の手紙と写真を同封し、個々に合わせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望を聴いたり、来訪の出来ない家族には、電話や自宅訪問時に伺うようにしている。出された要望等は、ミーティングの中で全職員と話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、全員の利用者に1日1度はかかわりを持つことを徹底し、馴染みの関係を大切に支援している。管理者は、新人職員と交換日誌を交わし、悩みや疑問などを文章にもらい適切なアドバイスや励ましの文章を書き、離職を抑える努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回、法人事業所が合同でシンポジウムを開催しており、職員は実践発表をしている。外部研修会の参加は、職員間でシフトを調整し協力しあって参加し、職員は働きながら各種の資格を取得している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック内勉強会に参加し、意見交換や情報の交換をしたり、認知症介護実践者研修で他同業者の実習生を受け入れるなど、相互訪問をして、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用するために、家族と一緒に見学してもらい納得してから入居している。雰囲気馴染むまでは、職員は1対1のケアをして信頼関係を築いたり、家族と相談するなど工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、調理や掃除の仕方の手際よさに教えられることが多く、職員は、穏やかに過ごせるように場面作りを工夫し、共に支えあう関係づくりに留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、かかわりの中で声がけをし、表情や言葉のはしはしも聞き漏らさずに、真意を測り確認するようにしている。意思疎通が困難な利用者は、家族から情報を得て支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、ミーティングで日頃の気づきやアイデアを話し、担当者が自宅を訪問して家族の意向を聴いたり、面会時に家族の要望を聴くなどしてから、カンファレンスをして、センター方式で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月ごとの見直しであるが、状態の変化がある時は、かかりつけ医や家族と相談の上、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望で、帰宅支援、美容室教会の送迎支援、受診支援など臨機応変に柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望により、かかりつけ医の受診は可能である。母体医療法人より毎月訪問介護をして利用者の健康を管理しており、夜間対応も体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について、契約時に家族に説明している。母体医師や看護師の指導のもと、職員はターミナルについての方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	内部研修でプライバシーについて学んだり、ミーティングの時に全職員が確認し合い、節度をもって対応している。個人に関する記録は事務所に保管してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの出来ること、出来ないことを見極めながら、その日の本人の気持ちを尊重して支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の力を活かしながら、調理のごしらえや盛り付け、後片づけなど職員と一緒にしている。希望により時には、外食や、弁当を取り入れて、楽しい食事ができるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間に規制がなく、希望があればいつでも自由に入浴ができ、拒否する傾向のある利用者には、タイミングをみて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力が発揮できるよう、家事仕事、掃除、歌、折り紙など一人ひとりにあわせた支援をし、職員は感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、買い物や散歩、ドライブなど戸外に出かける支援をしている。遠出の出来ない利用者は、夏場は花壇の花を見たり、事業所の周辺を散歩して日光浴をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠していないが愛犬のラブラドルレトリバーがいる。外出傾向のある利用者は声かけて、足をとめることもある。居室は鍵がなく、本人の意向で「勝手に入らないでください」の張り紙がしてある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	敷地内の母体法人と併設の事業所と合同で、夜間想定を含んだ防災訓練をしている。緊急連絡網には町会の方々もおおり、通報訓練から参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士が栄養のバランスや献立、カロリーなどを指導している。水分摂取状況を毎日チェック表に記録して、職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はバリアフリーが完備され、不快な音や臭いがなく、採光もカーテンで調節し、季節の花や装飾品で飾られ、居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は陽当たりが良く、在宅当時の家具や日用品が持ち込まれ、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。